

**予算特別委員会(平成30年第1回定例会)**

討論用資料

**総務費**

**自転車走行環境整備事業**

**質問** 自転車走行環境整備の一環として突如市内に設置されたナビマーク。地域住民や商店街の皆さんにはどのような周知や啓発を行いましたか。

**回答** 整備が今年度完了した時点で市のホームページに掲載したり、市の広報紙などでも紹介していきたいと考えています。

**マキの視点** 現状、ナビマーク上に車やバスが駐車している場合、道路側に大きく膨らんで自転車走行することになり危険です。スピードを出す車の交通量が多く、子どもや高齢者は危険ではないか、といった疑問が出ています。走行者の生命に関わることです。様々なケースを想定して丁寧な周知をしてください。



**自治会等への支援事業**

**質問** 町会など自治会から「本市には、どんな補助がありどのようなときに申請すればよいのか。」という声を度々いただきます。公会堂の修繕等に補助金は出ますが、お神輿の修繕やみんなで使うカラオケ機械などにも補助が出ることをどれだけのかたが知っているでしょうか。市のホームページを見ても仕組みがわかりにくく、制度もきちんと全部は公開されていないようにも見受けられますが、市はどのように案内しているのでしょうか。

**回答** 集会施設等の設置補助金については、自治会長あてに翌年度の希望調査を実施しています。個別対応などもして、担当者が丁寧に説明もしているので周知は十分に図られていると思います。

**マキの視点** 十分に周知が図られているかどうか、というのは市民や自治会が決めることです。そう感じていない市民が多いという現状を踏まえ、一度しっかりと顧みること、分析をすること、調査をすることが大切だとは思いませんか。市と自治会との温度差を感じます。一度、丁寧な聞き取り調査をしていただき、もっと自治会とコミュニケーションをとっていただくことをお願いします。本市では「自治会を応援する条例(仮称)」の策定も始まります。地域の絆こそ災害時や見守り等に重要です。自治会長さんもご高齢のかたが多くなっていますので丁寧にお願いいたします。




**民生費**

**育児支援ヘルパー事業**

**質問** 妊娠中から出産後一定期間まで家事や身の回りの世話などをヘルパーを利用するサービス。本市は1時間500円で4回までしか利用できない。他市と比較するとだいぶ少ないと感じますが、市はどのような見解をもっていますか。家庭の状況やお部屋の状況などをヘルパーに報告させ、虐待などないかを把握することも目的の一つとされていますが、この情報はどこで管理されどのようにいかされていますか。

**回答** 立川市では27年までモデル事業として無料で2回まで利用可でした。他市も参考にしながら今まで無料だったところを28年度からは1時間500円4回までとした。ヘルパーの報告は子ども家庭部で共有している。

**マキの視点** 虐待を察知する機能も兼ね備えると、数回の訪問では気付きにくい。回数を多く使っていただくためにも、使いやすさという点の工夫が必要かと思います。また、民間の同様のサービスと比較してかなり安く利用できる点で素晴らしい制度だと思うので、周知を工夫すればもっと利用者が増加するはずです。出産後間もなく大変で、孤独な時期を過ごしかねない女性の救いとして、大いに貢献し、子育てしやすいまちになるようお願いします。



**学童保育所民間運営事業**

**質問** 昨年、第一小学校区域ではサマー学童が開始され、夏休み中、学童待機児童たちの居場所となって大変に喜ばれました。しかしまた休み、春休みといった長期休暇を控え、「しばっこ(地域のボランティアのかたが子どもを見守る)や休暇中の学童は実施されるのか。なかつたらどうしよう。」といった不安を常に抱きながらお仕事を続けている親が多いという現状です。夏休みに限らず冬も春も日中親が働いている子どもたちの居場所作りを早急に考えなければなりません。夏は居場所があっても4か月後の冬には居場所がなくなってしまうかも、というでは継続した働き口を探すこともできません。こうした冬や春の休暇についても予算を策定する上でどういう検討がなされたのでしょうか。

**回答** 民間委託の場合、夏休みは1ヶ月あるので委託できるが、冬休みや春休みは1ヶ月ないため引き受ける事業者がいない。

**マキの視点** こうした「制度の狭間で困った方たち」や、民間で力ができないところの受け皿となるのが行政の役割です。民間でできない部分こそ、行政で助けてください!そして地域の声にもっと耳を傾け、どんなことに困っていらっしゃるのか十分に把握し、連携を密にしてください。共働き世帯が当たり前になった現在、こうしたニーズがあることは容易にわかるはずであり、もっと子育てしやすい立川市になるべく、柔軟な発想が必要です。



**発行者** 立川市議会議員 松本まき  
**住所** 〒190-0013 東京都立川市富士見町2丁目32番地15号  
**T E L** 042-512-7506 **F A X** 042-527-5880  
**E-mail** 888.maki.maki@gmail.com

**Facebookにて活動報告随時更新中!**

**松本マキ**

討論用資料

**立川市議会議員**

# 松本マキ

## マキおこせ、若い力

議会レポート NO.5

発行者 立川市議会議員 松本まき  
住所 〒190-0013 東京都立川市富士見町2丁目32番地15号  
TEL 042-512-7506



皆さま、こんにちは!立川市議会議員の松本マキです。春本番!市の花・こぶし、桜、菜の花、そしてチューリップと順次開花となりました。ごあいさつ新一年生のかわいいご挨拶に、思わずっこり。人間関係の基本は、やはり挨拶。「おはようございます」「こんにちは!」と挨拶が自然に交わされる地域は、犯罪も抑止でき、防犯カメラより効果があるとも言われます。私も地元のあいあいパトロール隊員として元気に挨拶運動していきます。

さて今回は、昨年12月におこなわれました第4回定例会、そして2月から3月22日まで開催されておりました第1回定例会の様子をご報告いたします。

特に3月の予算特別委員会では副委員長を拝命し、平成30年度の予算についてしっかりと審議をさせていただきました。皆さまから集めた大切な税金を、1円たりとも無駄に使うことがないよう、そして必要なところへ行き届くよう、強く要望をしました。

特に、私が9月の一般質問で取り上げた、第四小学校と第三小学校の給食の食器問題(都内公立小学校でこの2校のみがステンレス製の食器)ですが、それが契機となって予算が付き、一新されることになりました!父兄の皆さまが長年にわたり要望をされていましたが、なかなか実現されなかったものです。子どもたちの体を作るおいしい給食の実現と、教育の実施に力を入れていくよう見守っていきます。

これからもしっかりと地域の声を届けていきますので、応援よろしくお願ひいたします。

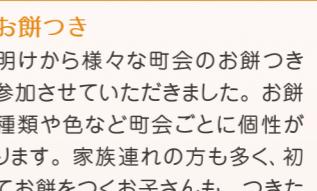
立川市議会議員 松本マキ

●元旦神輿



今年は立桜会さん名物・元旦神輿からスタート!30回という節目を迎え、ますます地域の絆と人の情けのあたたかさを感じた幕開けとなりました。

●お餅つき



年明けから様々な町会のお餅つきに参加させていただきました。お餅の種類や色など町会ごとに個性があります。家族連れの方も多く、初めてお餅をつくお子さんも。つきたてのお餅は柔らかくて最高です。

●総合防災訓練



いつ何時起きてもおかしくない首都直下型地震その他の災害。備えあれば憂いなし!立川災害ボランティア協会さんのブースで様々な防災グッズの勉強させていただきました!

●たちかわ競輪・お祭り



リニューアルオープンして早1年。以前、一般質問や予算委員会でご提案したことを採用してくださり、お祭りではカフェや移動動物園が開かれるなど「市民に愛される競輪場」に大きく前進したことを感じました!

●富士見町文化祭



私も郡上踊りのサークル・舞夢会の一員として出演しました。まだ動きが硬くて、練習が必要です。文化芸術や趣味こそ人生を豊かにします。そのための支援を惜しみなくするよう市へ求めます。

●卒業式



今年度は八中学校と新生小学校の卒業式へうがいました。「目立つからと言ってリーダーばかりが偉いわけじゃない。様々な役割分担があってそれぞれが大切。どれも同等に素晴らしい。『社会の歯車になること』は尊いことであり、みなさんも社会の歯車になってください。」という八中校長先生のお話は卒業生への最高のプレゼントです。

●駅頭



寒い日や雨の日も、立ち止まり演説を聞いてくださる方、ビラを取ってくださる方、握手をしてくださる方、ありがとうございます。これからは駅頭も行きやすい季節になります!



## 一般質問(平成29年第4回定例会)

討議用資料

### 選挙投票率向上のための取り組みや主権者教育について

**質問** 10月におこなわれた衆議院議員選挙の本市の投票率は、前回同選挙より10ポイント下げ、多摩26市中24位というひどいものでした。この機会に投票率向上のための取り組みを検証します。分析として、平成28年度の参議院議員選挙では20~24歳の投票率が一番低く35.84%、65~69歳の投票率が一番高く72.48%と差は2倍以上。投票率を上げるには年代ごとの原因を探り、異なるアプローチが必要です。本市は初めて選挙権行使する世代への特別な意識づけや、投票率向上のために各年代別にどのようなアプローチをしているのですか。

**回答** 選挙人名簿の提示、選挙時登録に合わせて新たに有権者となつた方々へ啓発ハガキを送付し、若者の選挙に対する関心を深め、投票意欲を向上させています。新成人の方には成人式で啓発チラシを配布している。

**マキの視点** 投票率が低い20代30代の若年層が自分事として社会の問題を捉え、意思表示できる環境づくりすること、そして無力感から脱して日本を背負っていくのだという自覚と責任を持たせることこそが若年層の投票率向上に最も有効です。中学校でも主権者教育をおこなっていますが、例えば実際に市議会へ陳情などおこなうように審議されるのか体験してもらったりと、中立性を保つつも内容の濃い授業を工夫してください。

### 空き家対策について

(国分寺の例など、図を使って説明しています。)

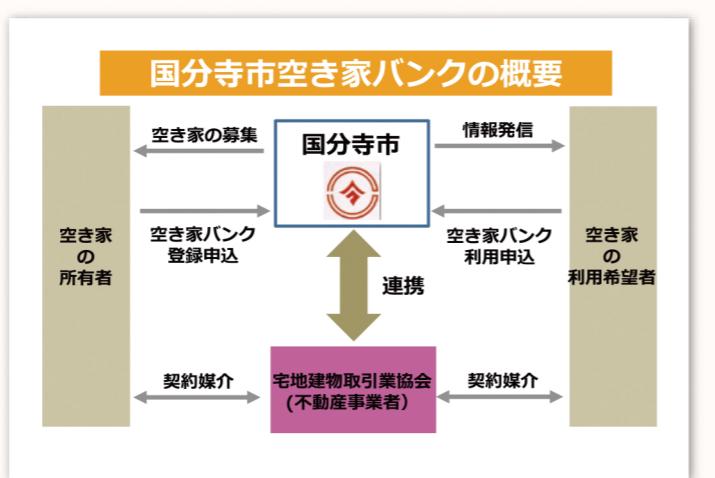
**質問** 空家対策特別措置法成立を受け、本市でも特定空家等の適正管理に関する条例が平成30年4月から施行となります。空家対策特別措置法には、緊急性が高い危険空き家を減らすという目的の他に、空き家や空き地を財産として市民に利活用するという重要な目的もありますが、まだ本市の条例では後者の目的までカバーされていません。空き家情報のデータベースを整理し、利活用を含めたことを話し合う協議会等をつくり、不動産業者等民間事業者との連携でどのように活用していくのか決めるべきです。本市で調査してきた空き家状況に関する進捗状況、空き家等の対策計画や利活用含めたことを話し合う市民や専門家も交えた協議会を設置するのか、協議会はどのような位置づけ、構成になるのかを聞きました。また、町会の集会所として長年使用している土地や建物の中には賃借しているものが多く、返還を迫られるなど苦労をしています。空き家の情報を活用し、町会に貸すことができれば便利だと考えます。空き家バンクを始めている近隣市もあり、今後、利活用をどのように進めていくのかうかがいました。

**回答** 平成29年8月から空き家の現地調査を実施し、11月上旬に終了した。空き家の数は戸建ての空き家については市内で約480棟あり、今後、空き家の所有者に対する意向調査を行う予定。この調査で、空き家の実態がある程度把握できると考えている。今後の調査結果を基礎資料として空き家対策を検討していくが、その中で計画策定のための協議会の設置や関係団体との協定などを検討する予定。空き家空き地バンクは空き家対策の中で重要な検討課題の一つと考えている。

マキの視点

国分寺市では空き家情報をデータベース化し、土地建物取引業協会と連携して市内の空き家を地域の資源として有効的に活用し地域を活性化するために動きはじめています。市が空き家をデータベース化し、市民に情報提供することにより、例えば集会利用やお祭り道具、防災グッズの保管場所として、町会の皆さまにも貸し出しが可能になるなど双方のニーズにマッチした仕組みづくりができるのではないかと思いました。

討議用資料



### 不妊治療助成金の創設について

**質問** 不妊治療助成金制度を備えている自治体は、この1年の間に多摩地域では4市増え、10市1町になっており行政の支援が必要であることを証明しています。子どもを産み育てることは社会全体で考えるべきところまできており、不妊治療助成制度について見解を聞きました。

### 1. 文化行政について

平成27年から始まった5ヶ年計画である第3次文化振興計画も半分である2年と半年が過ぎました。第4次長期総合計画『にぎわいとやすらぎの交流都市立川』の目玉とも言えるようなこの計画。到達目標として掲げられているのは『さまざまな文化芸術が息づき、誰もが楽しめるまち』としております。第3次文化振興計画の中間を迎へ、この目標の達成に関して、市はどのような見解を持っているのか、お聞かせください。

### 2. また次の第4次文化振興計画の策定を始めたうえでご提案したいこと

豊島区の『国際アート・カルチャー都市構想』をご存知でしょうか。新しく柔軟な発想で、まちづくりと一体となっており、読んでいて面白い文化振興の計画でした。例えば紹介いたしますと、コストプレ祭りの支援とか、まち全体が舞台という構想によりバーチャルとリアルの境界線を超えるとか、能をやったりとか。

もちろん立川市とでは規模が違いますが、参考になります。立川市は立川市の規模で、立川らしさを出して、豊島区の視点を取り入れていくべきと思います。そもそもなぜ私が豊島区に目をつけたかと言いますと、1990年代から2000年代にかけて豊島区は非常に治安が悪い地域として有名でした。カラーギャングと呼ばれる人たちや外国人も多く、犯罪件数も多かった豊島区ですが、いまそのダークなイメージをアートカルチャーの街として塗り替えていくことに成功しています。こうしたまちの背景や、石ノ森章太郎さんで有名な

トキワ荘があり、漫画やアニメやサブカルチャーに力をいれ始めていること、などが立川に共通すると強く思いました。立川市も基地のまち、ギャンブルのまちという印象から脱却し、アニメやサブカルチャーを中心として新たな文化を発信しているところが非常に似ています。北川フランさんもおっしゃってましたが『基地のまちからアートのまちへ』と。まさにわかりやすく言えばそうだと思います。私が資料を読んでいて、豊島区の計画で目立ったのは2点。

**ひとつは、国際戦略ということで世界に向けて発信していくという充実した施策。**たとえば手ぶら観光の環境整備として外国人旅行者の大きな荷物の問題を解消することを目指していました。外国企業を誘致したり、空き家を外国人の宿泊施設に変えることも取り組んでいます。国際的な芸術祭を積極的に誘致します。

**二つ目は、まちの回遊性です。**『出会いが生まれる劇場空間』として、公共空間の活用も具体的で充実しています。歩行者中心で考え、公園や道路のスペースをエリアマネジメントして自由な発想で使える。歩いていてたくさんの発見があり、人の交流が生まれる。これからはこの空間の活用ということが文化事業と密接に関わってくると思います。豊島区は道路や施設などのまちづくりと文化を結びつけて考えています。

立川市が第4次文化振興計画を策定する上でどんなことを考えていますか。こうして2点提案させていただきましたが、どうお感じになられたか、見解をお聞かせください。

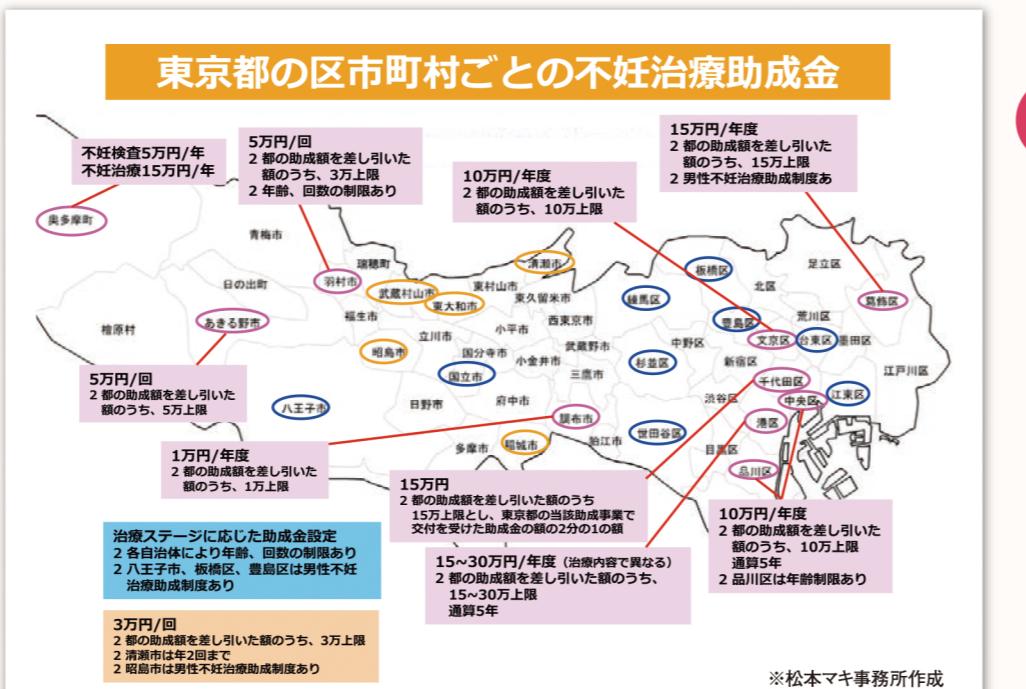


アニメやサブカルチャーを中心とした新たな文化を発信（豊島区）



### 東京都の区市町村ごとの不妊治療助成金

**質問** 不妊治療助成金制度を備えている自治体は、この1年の間に多摩地域では4市増え、10市1町になっており行政の支援が必要であることを証明しています。子どもを産み育てることは社会全体で考えるべきところまできており、不妊治療助成制度について見解を聞きました。



マキの視点

本市は子どもを産む過程と育てる過程で支援する制度はあるにも関わらず、肝心な子どもをつくる過程での支援がありません。今や6組に1組が不妊であると言われている時代。子どもをつくる過程で本市ができる支援、それは助成金だけではないかもしれません。子どもが欲しいと願っている夫婦の切実な思いに応える思いやりを形にしてほしいと訴えました。

### 市の回答

豊島区は文化芸術施策において様々な先進的な取り組みを行っている自治体ですので、次期の計画を策定する際に参考になる部分は検討したいと思っています。平成29年6月に国の文化芸術振興基本法が改正され、文化芸術基本法になりました。その中で、文化芸術と観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育などの施策との有機的な連携が求められています。次期計画策定時には文化芸術によるインバウンド対応やまちの回遊性の向上などの視点が必要になってくると考えています。